校異源氏物語・あさかほ

斎院は御ふくにておりゐ給にきかしおとゝれいのおほしそめつる事たえぬ御くせにて御とふらひなといとしけうきこえたまふ宮わつらはしかりしことをおほせは御かへりもうちとけてきこえ給はすいとくちをしとおほしわたるなか月になりてもゝその〻宮にわたり給ぬるをきゝて女五の宮のそこにおはすれはそなたの御とふらひに事つけてまうてたまふこ院のこのみこたちをは心ことにやむことなくおもひきこえ給へりしかはいまもしたしくつきつきにきこえかはし給ふめりおなしゝんてむのにしひむかしにそすみ給けるほともなくあれにける心ちしてあはれにけはひしめやかなり宮たいめむしたまひて御ものかたりきこえ給ふいとふるめきたる御けはひしはふきかちにおはすこのかみにおはすれとこおほとのゝ宮はあらまほしくふりかたき御ありさまなるをもてはなれこゑふつゝかにこち　くしくおほえ給へるもさるかたなり院のうへかくれ給て後よろつ心ほそくおほえはへりつるにとしのつもるまゝにいとなみたかちにてすくしはへるをこのみやさへかくうちすて給へれはいよいよあるかなきかにとまりはへるをかくたちよりとはせ給になむものわすれしぬへくはへるときこえたまふかしこくもふり給へるかなとおもへとうちかしこまりて院かくれ給て後はさま

くにつけておなし世のやうにもはへらすおほえぬつみにあたりはへりてしらぬよにまとひはへりしをたま　くおほやけにかすまへられたてまつりてはまたとりみたりいとまなくなとしてとしころもまいりていにしへの御物語をたにきこえうけ給はらぬをいふせくおもひたまえわたりつゝなむなときこえたまふをいとも　くあさましくいつかたにつけてもさためなきよをおなしさまにてみたまへすくすいのちなかさのうらめしきことおほくはへれとかくてよにたちかへり給へる御よろこひになむありしとしころをみたてまつりさしてましかはくちをしからましとおほえはへりとうちわなゝき給ていときよらにねひまさり給にけるかなわらはにものし給へりしをみたてまつりそめしときよにかゝるひかりのいておはしたる事とおとろかれはへりしをときときみたてまつることにゆゝしくおほえはへりてなむ内のうへなむいとよくにたてまつらせ給へりと人　くきこゆるをさりともおとり給へらむとこそをしはかりはへれとなか　くときこ

え給へはことにかくさしむかひて人のほめぬわさかなとおかしくおほすやまかつになりていたう思ひくつをれはへりしとしころのゝちこよなくおとろへにてはへるものをうちの御かたちはいにしへのよにもならふ人なくやとこそありかたくみたてまつりはへれあやしき御をしはかりになむときこえ給とき　くみたてまつらはいとゝしきいのちやのひはへらむけふはおいもわすれうき世のなけきみなさりぬる心ちなむとてもまたないたまふ三宮うらやましくさるへき御ゆかりそひてしたしくみたてまつり給ふをうらやみはへるこのうせ給ひぬるもさやうにこそくひ給ふおり　くありしかとの給ふにそすこしみゝとまり給ふさもさふらひなれなましかはいまに思ふさまにはへらましみなさしはなたせ給てとうらめしけにけしきはみきこえ給ふあなたの御まゐをみやり給へはかれ　くなるせむさいの心はへもことにみわたされてのとやかになかめ給ふらむ御ありさまかたちもいとゆかしくあはれにてえねんし給はてかくさふらひたるついてをすくしはへらむは心さしなきやうなるをあなたの御とふらひきこゆへかりけりとてやかてすのこよりわたり給ふくらふなりたるほとなれとにひいろのみすにくろきみき帳のすきかけあはれにおひかせなまめかしくふきとおしけはひあらまほしすのこはかたわらいたけれはみなみのひさしにいれたてまつるせんしたいめんして御せうそこはきこゆいまさらにわか　くしき心ちするみすのまへかな神さひにけるとし月のらうかそへられ侍にいまは内外もゆるさせ給ひてむとそたのみはへりけるとてあかすおほしたりありし世はみな夢にみなしていまなむさめてはかなきにやと思たまへさためかたくはへるにらうなとはしつかにやとさためきこえさすへうはへらむときこえいたし給へりけにこそさためかたき世なれとはかなきことにつけてもおほしつゝけらる

　人しれす神のゆるしをまちしまにこゝらつれなき世をすくすかないまはなにのいさめにかゝこたせ給はむとすらむなへて世にわつらはしきことさへはへりしのちさま　くに思給へあつめしかないかてかたはしをたにとあなかちにきこえたまふ御よういなともむかしよりもいますこしなまめかしきけさへそひたまひにけりさるはいといたうすくし給へと御くらゐのほとにはあはさめり

　なへてよのあはれはかりをとふからにちかひしことゝ神やいさめむとあれはあな心うそのよのつみはみなしなとの風にたくへてきとの給ふあひきやうもこよなしみそきをかみはいかゝはへりけんなとはかなき事をきこゆるもまめやかにはいとかたはらいたしよつかぬ御ありさまはとし月にそへてもものふかくのみひきいり給ひてえきこえ給はぬをみたてまつりなやめりすき　くしきやう

になりぬるをなとあさはかならすうちなけきてたち給ふよはひのつもりにはおもなくこそなるわさなりけれよにしらぬやつれをいまそとたにきこえさすへくやはもてなし給ひけるとていて給ふなこりところせきまてれいのきこえあへりおほかたのそらもおかしきほとにこのはのおとなひにつけてもすきにしものゝあはれとりかへしつゝそのおり　くおかしくもあはれにもふかくみえ給し御心はへなとも思ひいてきこえさす心やましくてたちいて給ひぬるはましてねさめかちにおほしつゝけらるとくみかうしまいらせ給て朝きりをなかめ給ふかれたる花ともの中にあさかほのこれかれにはひまつはれてあるかなきかにさきてにほひもことにかはれるをゝらせ給てたてまつれ給ふけさやかなりし御もてなしに人わろき心ちしはへりてうしろてもいとゝいかゝ御らむしけむとねたくされと

　みしおりの露わすられぬあさかほのはなのさかりはすきやしぬらんとしころのつもりもあはれとはかりはさりともおほしゝるらむやとなむかつはなときこえ給へりおとなひたる御ふみの心はへにおほつかなからむもみしらぬやうにやとおほし人　くも御すゝりとりまかなひてきこゆれは

　あきはてゝきりのまかきにむすほゝれあるかなきかにうつるあさかほにつかはしき御よそへにつけてもつゆけくとのみあるはなにのおかしきふしもなきをいかなるにかをきかたく御らむすめりあをにひのかみのなよひかなるすみつきはしもおかしくみゆめり人の御ほとかきさまなとにつくろはれつゝそのおりはつみなきこともつき　くしくまねひなすにはほゝゆかむ事もあめれはこそさかしらにかきまきらはしつゝおほつかなきこともおほかりけりたちかへりいまさらにわか　くしき御ふみかきなともにけなきことゝおほせともなをかくむかしよりもてはなれぬ御けしきなからくちをしくてすきぬるをおもひつゝえやむましくておほさるれはさらかへりてまめやかにきこえ給ひんかしのたいにはなれおはしてせしをむかへつゝかたらひ給ふさふらふ人　くのさしもあらぬきはのことをたになひきやすなるなとはあやまちもしつへくめてきこゆれと宮はそのかみたにこよなくおほしはなれたりしをいまはましてたれもおもひなかるへき御よはひおほえにてはかなき木草につけたる御かへりなとのおりすくさぬもかる　くしくやとりなさるらむなと人のものいひをはゝかり給ひつゝうちとけ給へき御けしきもなけれはふりかたくおなしさまなる御心はへをよの人にかはりめつらしくもねたくも思ひきこえ給ふよのなかにもりきこえてせむ斎院をねんころにきこえたまへはなむ女五の宮なともよろしくおほしたなりにけなから

ぬ御あはひならむなといひけるをたいのうへはつたへきゝ給ひてしはしはさりともさやうならむこともあらはへたてゝはおほしたらしとおほしけれとうちつけにめとゝめきこえ給に御けしきなともれいならすあくかれたるも心うくまめ
くしくおほしなるらむことをつれなくたはふれにいゝなしたまひけんよとおなしすちにはものし給へとおほえことにむかしよりやむことなくきこえ給ふお御心なとうつりなはゝしたなくもあへいかなとしころの御もてなしなとはたちならふかたなくさすかにならひて人にをしけたれむ事なと人しれすおほしなけかるかきたえなこりなきさまにはもてなし給はすともいとものはかなきさまにてみなれ給へるとしころのむつひあなつらはしきかたにこそはあらめなとさまくに思ひみたれ給ふによろしきことこそうちゑしなとにくからすきこえ給へまめやかにつらしとおほせはいろにもいたし給はすはしちかうなかめかちにうちすみしけくなりやくとは御文をかき給へはけに人のことはむなしかるましきなめりけしきをたにかすめ給へかしとうとましくのみおもひきこえ給ふゆふつかた神わさなともとまりてさう　くしきにつれ　くとおほしあまりて五の宮にれいのちかつきまいり給ふゆきうちゝりてえむなるたそかれときになつかしきほとになれたる御そともをいよ　くたきしめ給てこゝろことにけさうしくらし給へれはいとゝ心よはからむ人はいかゝとみえたりさすかにまかり申はたきこえ給ふ女五の宮のなやましくしたまふなるをとふらひきこえになむとてついゐ給へれとみもやり給はすわか君をもてあそひまきらはしおはするそはめのたゝならぬをあやしく御けしきのかはれるへきころかなつみもなしやしほやきころものあまりめなれみたてなくおほさるゝにやととたえをくをまたいかゝなときこえ給へはなれゆくこそけにうきことおほかりけれとはかりにてうちそむきてふし給へるはみすてゝいて給ふみちものうけれとみやに御せうそこきこえたまひてけれはいて給ひぬかゝりける事もありけるよをうらなくてすくしけるよとおもひつゝけてふし給へりにひたる御そともなれといろあひかさなりこのましくなか　くみえてゆきのひかりにいみしくえむなる御すかたをみいたしてまことにかれまさり給はゝとしのひあへすおほさる御せんなとしのひやかなるかきりしてうちよりほかのありきはものうきほとになりにけりやもゝそのゝ宮の心ほそきさまにてものし給ふも式部卿宮にとしころはゆつりきこえつるをいまはたのむなとおほしの給もことはりにいとおしけれはなと人　くにもの給ひなせといてや御すき心のふりかたきそあたら御きすなめるかる　くしき事もいてきなむなとつふやきあへり宮にはきたをもての人しけきかたなるみかとはいり

給はむもかろ　くしけれはにしなるかこと　くしきを人いれさせ給て宮の御方に御せうそこあれははけふしもわたり給はしとおほしけるをおとろきてあけさせ給みかともりさむけなるけはひうすゝきいてきてとみにもえあけやらすこれよりほかのをのこはたなきなるへしこほこほとひきて上のいといたくさひにけれはあかすとうれふるをあはれときこしめすきのふけふとおほすほとにみとせのあなたにもなりにけるよかなかゝるをみつゝかりそめのやとりをえ思ひすてすきくさの色にも心をうつすよとおほししらるゝくちすさひに

いつのまによもきかもとゝむすほゝれゆきふるさとゝあれしかきねそやゝひさしうひこしらひあけていり給ふ宮の御かたにれいの御物かたりきこえ給ふにふることゝものそこはかとなきうちはしめきこえつくし給へと御みゝもおとろかすねふたきにみやもあくひうちし給てよひまとひをしはへれはものもえきこえやらすとの給ほともなくいひきとかきゝしらぬをとすれはよろこひなからたちいて給はむとするにまたいとふるめかしきしはふきうちしてまいりたる人ありかしこけれときこしめしたらむとたのみきこえさするをよにあるものともかすまへさせたまはぬになむ院のうへはをはおとゝとわらはせ給しなとなのりいつるにそおほしいつる源内侍のすけといひし人はあまになりてこのみやの御てしにてなむをこなふときゝしかといまゝてあらむともたつねしり給はさりつるをあさましうなりぬそのよのことはみなむかしかたりになりゆくをはるかにおもひいつるも心ほそきにうれしき御こゑかなおやなしにふせるたひ人とはくゝみ給へかしとてよりゐたまへる御けはひにいとゝむかしおもひいてつゝふりかたくなまめかしきさまにもてなしていたうすけみにたるくちつきおもひやらるゝこはつかひのさすかにしたつきにてうちされむとは猶おもへりいひこしほとになときこえかゝるまはゆさよいましもきたるおひのやうになとほゝゑまれ給ふものからひきかへこれもあはれなりこのさかりにいとみ給し女御かういあるはひたすらなくなり給あるはかひなくてはかなきよにさすらへ給ふもあへかめり入道の宮なとの御よはひよあさましとのみおほさるゝよにとしのほとみのゝこりすくなけさにこころはへなとものはかなくみえし人のいきとまりてのとやかにおこなひをもうちしてすくしけるは猶すへてさためなき世なりとおほすにものあはれなる御けしきを心ときめきに思ひてわかやく

としふれとこの契こそわすられねおやのおやとかいひしひとことゝきこゆれはうとましくて

身をかへて後もまちみよこのよにておやをわするゝためしありやとたのも

しきちきりそやいまのとかにそきこえさすへきとてたち給ひぬにしおもてにはみかうしまいりたれといとひきこえかほならむもいかゝとてひとまふたまはおろさす月さしいてゝうすらかにつもれるゆきのひかりあひてなか　くいとおもしろきよのさまなりありつるおいらくの心けさうもよからぬものゝよのたとひとかきゝしとおほしいてられておかしくなむこよひはいとまめやかにきこえ給ひてひとことにくしなとも人つてならてのたまはせんをおもひたゆるふしにもせんとおりたちてせめきこえたまへとむかしわれも人もわかやかにつみゆるされたりしよにたにこ宮なとの心よせおほしたりしをなをあるましくはつかしとおもひきこえてやみにしをよのするゑにさたすきつきなきほとにてひとこゑもいとまはゆからむとおほしてさらにうこきなき御心なれはあさましうつらしと思ひきこえ給さすかにはしたなくさしはなちてなとはあらぬ人つての御かへりなとそ心やましきや夜もいたうふけゆくに風のけはひはけしくてまことにいともの心ほそくおほゆれはさまよきほとをしのこひ給ひて

つれなさをむかしにこりぬ心こそ人のつらきにそへてつらけれ心つからのとのたまひすさふるをけにかたはらいたしと人　くれいのきこゆ

あらためてなにかはみえむ人のうへにかゝりときゝし心かはりをむかしにかはることはならはすなときこえたまへりいふかひなくていとまめやかにゑしきこえていて給もいとわか　くしき心ちし給へはいとかくよのためしになりぬへきありさまもらし給なよゆめ　くいさらかはなともなれ　くしやとてせちにうちさゝめきかたらひ給へとなに事にかあらむ人　くもあなかたしけなあなかちになさけをくれてもゝてなしきこえたまふらんかるらかにをしたちてなとはみえ給はぬ御けしきを心くるしうといふけに人のほとのおかしきにもあはれにもおほししらぬにはあらねとものおもひしるさまにみえたてまつるとてをしなへてのよの人のめてきこゆらむつらにやおもひなされむかつはかる　くしき心のほともみしり給ひぬへくはつかしけなめる御ありさまをとおほせはなつかしからむなさけもいとあひなしよその御かへりなとはうちたえておほつかなかるましきほとにきこえ給ひ人つての御いらへはしたなからてすくしてむとふかくおほすとしころしつみつるつみうしなうはかり御おこなひをとはおほしたてとにはかにかゝる御事をしももてはなれかほにあらむも中　くいまめかしきやうにみえきこえて人のとりなさしやはとよの人のくちさかなさをおほししりにしかはかつさふらふ人にもうちとけ給はすいたう御心つかひし給ひつゝやう　く御をこなひをのみしたまふ御はらからのきむたちあまたものし給へとひとつ御

はらならねはいとうと　くしく宮のうちいとかすかになりゆくまゝにさはかり
めてたき人のねむころに御心をつくしきこえ給へはみな人心をよせきこゆるも
ひとつ心とみゆおとゝはあなかちにおほしいらるゝにしもあらねとつれなき御
けしきのうれたきにまけてやみなむもくちをしくけにはた人の御ありさまよの
おほえことにあらまほしくものをふかくおほししりよの人のとあるかゝるけち
めもききつめ給ひてむかしよりもあまたへまさりておほさるれはいまさらの御
あたけもかつはよのもときをもおほしなからむなしからむはいよ　く人わらへ
なるへしいかにせむと御心うこきて二条院に夜かれかさね給ふを女きみはたは
ふれにくゝのみおほすしのひたまへといかゝうちこほるゝおりもなからむあや
しくれいならぬ御けしきこそ心えかたけれとて御くしをかきやりつゝいとおし
とおほしたるさまもゐにかゝまほしき御あはひなり宮うせ給ひて後うへのいと
さうさうしけにのみよをおほしたるも心くるしうみたてまつりおほきおとゝも
ものし給はてみゆつる人なきことしけさになむこのほとのたえまなとをみなら
はぬことにおほすらむも事はりにあはれなれといまはさりとも心のとかにおほ
せおとなひ給ためれとまたいとおもひやりもなく人の心もみしらぬさまにもの
し給ふこそらうたけれなとまろかれたる御ひたいかみひきつくろひ給へといよ
　くそむきてものもきこえ給はすいといたくわかひ給へるはたかならはしきこ
えたるそとてつねなきよにかくまて心をかるゝもあちきなのわさやとかつはう
ちなかめ給ふさい院にはかなしことにきこゆるやもしおほしひかむるかたあるそ
れはいともてはなれたる事そよをのつからみたまひてむ昔よりこよなうけとを
き御心はへなるをさうさうしきおり　くたゝならてきこえなやますにかしこも
つれつれにものし給ふところなれはたまさかのいらへなとし給へとまめ　くし
きさまにもあらぬをかくなむあるとしもうれへきこゆへきことにやはうしろめ
たうはあらしとを思ひなをしたまへなとひひとひなくさめきこえ給ふ雪のいた
うふりつもりたるうへにいまもちりつゝまつとたけとのけちめおかしうみゆる
夕くれに人の御かたちもひかりまさりてみゆとき　くにつけても人の心をうつ
すめる花もみちのさかりよりも冬の夜のすめる月にゆきのひかりあひたる空こ
そあやしういろなきものゝ身にしみてこのよのほかの事まておもひなかされお
もしろさもあはれさものこらぬおりなれすさましきためしにいひをきけむ人の
心あささよとてみすまきあけさせ給ふ月はくまなくさしいてゝひとつ色にみえ
わたされたるにしほれたるせむさいのかけ心くるしうやり水もいといたうむせ
ひて池のこほりもえもいはすゝこきにわらはへおろして雪まろはしせさせ給ふ

おかしけなるすかたかしらつきともつきにはへておほきやかになれたるかさま
　くのあこめみたれきおひしとけなきとのいすかたなまめいたるにこよなうあ
まれるかみのするゑしろきにはましてもてはやしたるいとけさやかなりちゐさき
はわらはけてよろこひはしるにあふきなともおとしてうちとけかをおかしけな
りいとおほうまろはさらむとふくつけかれとえもをしうこかさてわふめりかた
へはひんかしのつまなとにいてゐて心もとなけにわらふひとゝせ中宮のおまへ
にゆきのやまつくられたりしよにふりたる事なれと猶めつらしくもはかなきこ
とをしなし給へりしかなゝにのおり　くにつけてもくちをしうあかすもあるか
ないとけとをくもてなし給ひてくわしき御ありさまをみならしたてまつりしこ
とはなかりしかと御ましらひのほとにうしろやすきものにはおほしたりきかし
うちたのみきこえてとある事かゝるおりにつけてなに事もきこえかよひしにも
ていてゝらう　くしきこともみえ給はさりしかといふかひあり思ふさまにはか
なきことわさをもしなし給ひしはやよにまたさはかりのたくひありなむやはら
かにをひれたるものからふかうよしつきたるところのならひなくものし給しを
君こそはさいへとむらさきのゆへこよなからすものし給ふめれとすこしわつら
はしきけそひてかと　くしさのすゝみ給へるやくるしからむせんさい院の御心
はへはまたさまことにそみゆるさう　くしきになにとはなくともきこえあはせ
われも心つかひせらるへきあたりたゝこのひとゝころやよにのこり給へらむと
のたまふ内侍のかみこそはらう　くしくゆへ　くしきかたは人にまさり給へれ
あさはかなるすちなともてはなれ給へりける人の御心をあやしくもありけるこ
とゝもかなとの給へはさかしなまめかしうかたちよき女のためしにはなをひき
いてつへき人そかしさも思ふにいとをしくゝやしきことのおほかるかなまいて
うちあたけすきたる人のとしつもりゆくまゝにいかにくやしきことおほからむ
人よりはことなきしつけさと思ひしたになとの給ひいてゝかむの君の御ことに
にもなみたすこしはおとし給ひつこのかすにもあらすおとしめたまふ山さとの
人こそは身のほとにはやゝうちすきものゝ心なとえつへけれと人よりことなへ
きものなれは思ひあかれるさまをもみけちてはへるかないふかひなきゝはの人
はまたみす人はすくれたるはかたきよなりやひんかしの院になかむる人の心は
へこそふりかたくらうたけれさはたさらにえあらぬものをさるかたにつけての
心はせ人にとりつゝみそめしよりおなしやうによをつゝましけにおもひてすき
ぬるよいまはたかたみにそむくへくもあらすふかうあはれと思ひはへるなとむ
かしいまの御物語に夜ふけ行月いよ　くすみてしつかにおもしろし女君

こほりとちいしまの水はゆきなやみ空すむ月のかけそなかるゝとをみいたしてすこしかたふき給へるほとにるものなくうつくしけなりかむさしおもやうのこひきこゆる人のおもかけにふとおほえてめてたけれはいさゝかわくる御心もとりかさねつへしをしのうちなきたるに

かきつめてむかし恋しきゆきもよにあはれをそふるをしのうきねかいり給ひてもみやの御事をおもひつゝおほとのこもれるに夢ともなくほのかにみたてまつるいみしくうらみ給へる御けしきにてもらさしとのたまひしかとうきなのかくれなかりけれははつかしうくるしきめをみるにつけてもつらくなむとのたまふ御いらへきこゆとおほすにをそはるゝ心ちして女君のこはなとかくはとの給ふにおとろきてゝみしくくちをしくむねのおきところなくさはけはをさへて涙もなかれいてにけりいまもいみしくぬらしそへ給ふ女君いかなる事にかとおほすにうちもみしろかてふし給へり

とけてねぬねさめさひしき冬の夜にむすほゝれつる夢のみしかさなか　く

あかすかなしとおほすにとくおきたまひてさとはなくてところ　くにみすきやうなとせさせ給ふくるしきめみせ給ふとうらみ給へるもさそおほさるらんかしをこなひをし給ひよろつにつみかろけなりし御ありさまなからこのひとつ事にてそこのよのにこりをすすい給はさらむとものゝ心をふかくおほしたとるにいみしくかなしけれはなにわさをしてしる人なきせかいにおはすらむをとふらひきこえにまうてゝつみにもかはりきこえはやなとつく　くとおほすかの御ためにとりたてゝなにわさをもしたまはむは人とかめきこえつへしうちにも御心のおにゝおほすところやあらむとおほしつゝむほとにあみたほとけを心にかけてねんしたてまつり給おなしはちすにとこそは

なき人をしたふ心にまかせてもかけみぬみつのせにやまとはむとおほすそうかりけるとや